

# 万が一のために・・・

『自然体験活動指導者安全管理ハンドブック』より

実施前に下図の①～④について、必ず確認しておきましょう。

## ① 事故が起これば・・・

- (1) 安全の確保
  - ① 傷病者及び救護者以外の安全確保
  - ② 傷病者の確認
  - ③ 救急車等の手配
- (2) 傷病者の救護
  - ① 安全な場所への移動
  - ② 応急処置
- (3) 警察への連絡  
(重大な事故の場合)
- (4) 事故の記録をとる
  - ① 事故発生の日時・場所
  - ② 処置の内容
  - ③ 傷病者の名前・住所
  - ④ 事故の状況と程度
- (5) 保険会社へ連絡
- (6) 傷病者への誠意を持った対応

## ② 緊急連絡一覧

- ※◎は各自で御記入ください
- 救急・消防 ……119
  - 警察 ……110
  - 海上保安庁 ……118
  - 災害用伝言ダイヤル …171
  - ◎ 本部  
〔 〕
  - ◎ 保険会社  
〔 〕
  - ◎ 医療機関（複数確認）
    - ・ 総合病院  
〔 〕
    - ・ 整形外科  
〔 〕
    - ・ 内科  
〔 〕
  - ◎ タクシー会社  
〔 〕
  - ◎ 保護者（必要に応じて別紙に）

## ③ 傷病者の対応について

- (1) 傷病者処置の原則を守って対応しましょう。
  - ① 受講したトレーニングや資格の範囲内で処置
  - ② 主催団体の危機対応手順や医師の指示を遵守
  - ③ 意識がある場合は傷病者の合意を
- (2) 対応の流れ
  - ① まずは冷静に！  
適正な判断で、被害を拡最小限に！
  - ② 周囲の状況と事故者の様子の把握
    - ・ 生存者の確認
    - ・ 傷病者の人数と状況を正しく迅速に判断
  - ③ 救助に向かうか協力者を得るかの判断を行う  
無理だと思えば、他の協力者に連絡を！
  - ④ 救急処置
    - ・ 直ちに処置  
…心肺停止、呼吸停止、意識障害、大出血等
    - ・ 時間に余裕がある傷病の場合  
…情報収集、全身検査、バイタルチェック等
  - ⑤ 救急処置後
    - ・ 傷病者の様態のチェック  
(体温、体位などに注意)
  - ⑥ 搬送  
(救急車やレスキュー隊がすぐに来れない場合)
  - ⑦ 専門医への引き渡し

## ④ 注意！！脊椎損傷

脊椎…重要な神経（脊髄）が通っている部分

強い衝撃が加わった可能性がある外傷や、頭部にケガがある場合は、脊椎の損傷の可能性を疑わなければなりません。

意識の有無に関わらず、脊椎に不自然な力が加わらないように固定します。

心肺蘇生が必要な傷病者に対しても、できる限り丁寧に仰臥位にし、心肺蘇生中も頭部を固定します。

いざという時のために、研修などを定期的に受け、事故対処能力の向上を図りましょう！

# 自然体験活動リスクマネジメント チェックリスト

このようなチェックリストを作成し、効果的なリスクマネジメントが図られているかを適宜確認することができれば、大切なことを見落とすことなく活動を実施することができます。

なお、活用の際には、実際の実施状況（対象者、環境、気候、天候 etc.）に合わせてリストを作成してください。

## ① 実施の目的

- 目的が明確なプログラムになっていますか？
- 子どもの心身の発達段階をふまえていますか？
- 指導者の役割分担について考慮していますか？
- スタッフ間で目的の共有はできていますか？
- 人間関係（指導者と子ども、子ども同士）に配慮していますか？

## ② 活動内容と安全管理

- フィールドについての情報は十分ですか？
- 装備品等の確保はできていますか？
- 緊急時の対応について配慮していますか？
- 活動に必要な経費は確保されていますか？
- 具体的な危険とそれを回避する方法を考えていますか？
- 荒天時や交通事情に対応できる代替案を考えていますか？

## ③ 子どもの現状理解

- 参加する子どもたちの健康についてチェックしましたか？
- 参加する子どもたちの特徴は把握できていますか？（持病、食事制限など）
- 参加する子どもたちの体力・運動能力について把握していますか？

## ④ 安全管理

- 実地踏査（下見）は十分ですか？
- 事故やけがを未然に防ぐ手立てをしましたか？
- それらの危険をスタッフ間で共有できていますか？
- スタッフの安全が確保できていますか？
- その方法で、安全に提供できることを説明できますか？
- 事故やけがが起きてしまった時の手立てを確立していますか？



## ⑤ 道具について

- 目的を達成するために必要な数が十分揃っていますか？
- 十分に整備され、丁寧に使ってもらえる状態になっていますか？
- 使う道具は、安全なものですか？
- 子どもが使ったときの想定ができていますか？

## ⑥ その他

- 開催前に、参加者に十分な情報が行き届いていますか？  
（集合・解散の場所と方法、服装、持ち物、どういう活動がなされるのか など）
- 保護者に目的や安全性を説明できますか？
- 保険に加入しましたか？

※ このチェックリストは、令和3年度自然体験活動リスクマネジメント人材育成事業における研修内容（委託業者：NPO法人自然体験活動推進協議会）と国立青少年教育振興機構が2010年3月に発行した自然体験活動指導者養成講習会テキスト「学校で自然体験をすすめるために」をもとに編集したものです。